

# 2019 年度学校法人相模女子大学事業計画書

## はじめに

「Sagami Vision 2020ー総合学園としての約束ー（以下ビジョンとする）」を具現化するために策定された「Sagami Vision 2020 の実現に向けた中長期基本計画（以下、基本計画と称する。）」において 2020 年までに実現するとした重点計画を達成するため、2019 年度に実行する具体的な事業として、以下に示す。

## I 「Sagami Vision 2020」に示す教育構想を実現する計画

大学等並びに併設各部は、学長・校長・園長の下、ビジョンに示す教育構想を実現するため、2019 年度事業を計画し、実行する。

### <大学・大学院・短期大学部>

基本計画において「2015 年度の重点計画」および「2020 年に向けた重点計画」として定めた以下の事業計画に沿ってビジョンに示す教育構想の実現に努める。

学長のリーダーシップに基づき、2018（平成 30）～2020 年度における目標を「持続可能な大学」と定め、その実現に向けたプロジェクトチームの設置・諮問を通じて大学改革を推進する。

外部評価機関による自己点検・評価に加え、自律的な自己点検・評価を定期的に行う学内体制を一層充実させ、日常的な PDCA サイクルを機能させることで、教育の質の向上を図る。

#### 1. ビジョンに示す新しい大学教育を実現するために引き続き教育改革を実施する。

##### （継続）

- （1）この間検討を進めてきた第 4 次学部学科改編の一環として、「大学院社会デザイン研究科」（専門職大学院）を 2020 年度に開設する（認可申請中）。
- （2）学科横断プログラムでの実践を踏まえて、既存学科の枠組みを越えた新たな教育体系として、「クロスオーバー型教育」の検討を行い、その制度設計と正課教育としての導入を進める。
- （3）社会人として求められる基礎力を育成するために 2018（平成 30）年度に運用を開始した全学共通科目の新カリキュラムについて、「さがみ総合講座」を始めと

する各科目に関する学生の履修状況や単位修得状況等のデータ分析を行い、次のカリキュラム改編につなげていく。

- (4) 学科を越えたフレキシブルな学びを実現する「学科横断プログラム」については、指定科目履修者の増加を図り、指定プロジェクトを通じた実践的な学びを推進する。
- (5) 附属図書館、7号館、マーガレット本館における学習空間としてのラーニングコモンズのあり方を検討し、整備に取り組むなど、正課教育における学習支援のための環境づくりを推進する。

## 2. 教育課程の体系化に引き続き取り組む。(継続)

正課・正課外を含め、大学全体で、本学の教育目標に合った人材を育成するために、引き続き教育課程の体系化を推進する。

- (1) 各学科における「3つのポリシー」、「カリキュラムマップ」、「ナンバリング制度」の間の整合性を検証し、教育課程における課題の分析を進め、教育課程の体系化に取り組む。
- (2) 各学科によるカリキュラム改定の手続きを見直し、学長を中心とした機関で検討・審議を行う態勢を構築し、各学科がカリキュラムの改定を行う際の拠り所とすべき指針づくりを行う。
- (3) 学習成果の可視化に向けた体制を整備するために、アセスメント・ポリシーを制定し、教育の質保証に関する委員会を設置する。

## 3. 入学者を確保する取り組みを推進する。(継続)

文部科学省が進める大学入試共通テストに対応した入試制度全般の見直しを行い、併せて入学定員を充足するための方策として次の取り組みを行う。

- (1) 2019年度の入試で、これまでの定員未充足学科の定員充足率が大幅に改善できたが、安定的に継続できるよう学科ごとに独自の広報戦略を立て、積極的な広報活動を展開する。
- (2) 高校生を対象にした募集活動に加え、社会人入学者を増やす取り組みとして、社会人向けに特化した入学情報の提供、社会人が受験しやすい選抜制度の実施、社会人が学びやすい教育環境づくり、社会人学生のための学生生活支援に取り組む。また、2020年度開設予定の大学院社会デザイン研究科(専門職大学院)への社会人対象の広報活動に取り組む。
- (3) オープンキャンパスに受験生を誘導するために、本学の魅力を直接伝えることができる外部企画等に積極的に参加するなど、広報活動の見直しを行う。また、オープンキャンパスの満足度を上げることを目標とし、実施する企画の検討を図る。

(4) 高大接続の目的は、それぞれの高校のスクールアイデンティティを考慮し、それを大学の教育にどうつなげるかという視点に立って、育成すべき人材像と一緒に考えていく相互連携型教育を目指すことにある。

高大接続をさらに推進するための入試制度の改革を目指して、他大学における入試改革の情報収集を行い、本学における最善の導入方法を探りながら、AO入試など既存の選抜方法の改善を進め、2021年度入試に向けて新たな選抜方法の検討を図る。

#### 4. 学生の学びの向上と成長につながるFD活動を推進する。(継続)

- (1) 教員個々における授業改善に加え、学科単位におけるカリキュラムの点検・改善に役立てることができるように、現行の授業評価アンケートの活用方法について検討を行う。併せて、学科単位で行うFD活動の推進と、教員の自主的な授業改善に向けた活動を支援することを目的に、必要とされる環境づくりを行う。クラウド型学習支援システム「manaba」の全学導入に伴い、FD研修会においてeラーニングの活用に関するテーマを取り上げ、学内における周知及びシステムの利用促進を図る。
- (2) 学生の学習到達度と成長度を測るアセスメントの実施等、教育課程を評価・点検するシステムの導入を進める。学部や学科レベルで学生の学習成果を測る仕組みを導入し、学生の学習到達度を客観的に把握し、教育活動の改善を行う。
- (3) 科研費の交付に伴う間接経費の活用等を通じて、教員の研究環境の整備を図る。
- (4) 大学のホームページや、学内のパネル展示等により、教員の研究成果を積極的に公表する。

#### 5. 調査データ(IR)を活用したきめ細やかな学生サポートを推進する。(継続)

- (1) 入学から卒業までの間に実施している各種アンケートや調査等の集計結果、各部署で聴取している学生の意見など、学内における学生情報を集約、分析し、関連部署間で課題を共有しながら、学生の満足度を向上させるための改善策を実施する。
- (2) 現行の入試制度別、高校課程別、入学前eラーニングの実施状況別の休学・退学率の状況や、単位修得状況、GPA等データの分析を継続的に行い、より効果の高い退学者抑制策を検討し、実施する。
- (3) 単位制・通信制高校等出身者を対象とした入学前交流会を継続的に開催し、参加した学生の学修・生活状況等の把握や、定期的な面談を通じて学生生活のフォローを行うとともに、学生が関心を持つテーマで定期的にイベントを実施し、学内での居場所作り、友人作りのきっかけを提供することで、退学者の抑制に努める。

## 6. 正課教育のみならず、正課外における学生の主体的な学びを支援する。(継続)

学園のスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」に基づき、「女性のしなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つめる人になる。」人材を育成するため、「夢をかなえるセンター」を中心に教員と事務職員が協働して正課外における学生の主体的な学びを支援する。

- (1) 社会とつながる教育活動を充実(双方向型の地域連携の推進)に向けて、地域連携活動の一部で行われているマーガレットスタディ※を、正課外における学生の主体的な学び全てに導入する。

※マーガレットスタディとは、地域における実践的な活動のみならず、その前後に目標設定及び活動後の振り返りを行う講座を設け、自らの成長に気付き、次の活動へつなげる本学独自の課外活動プログラムのこと。

- (2) 国際交流と英語教育の充実を目指すための包括的プロジェクトを推進する。
- (3) 学生(卒業生を含む)のキャリア教育として、職業教育と就職活動支援を行う。全学生を対象とした卒業生との懇談を行う等、学年を問わずキャリアイメージを持てる取り組みを推進する。
- (4) 地域に開かれた大学を目指し実施するエクステンション教育として、さがみアカデミー等の公開講座を実施する。また、2020年度新設を予定している専門職大学院のプロモーションを兼ねる準備講座を実施する。
- (5) 学園の特色となる学園連携教育(教養教育)として、「そうだ、大学に行こう。」等、大学生対象のプログラムを高等部生に開放することを推進する。

### < 中学部・高等部 >

ビジョン達成に向けて掲げられた学園のスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもとで設定された中学部・高等部の新しい教育目標(「研鑽力」「発想力」「協働力」の育成)のもと、教育内容の整備・充実及び教員の教育力のいっそうの向上を図り、生徒・保護者・教職員にとってより満足度の高い学校づくりを推進する。

#### 1. 中高一貫教育の検証に基づき、教育内容の充実を図る。(継続)

中学部・高等部の生徒人数差の大きい現行の中高一貫体制の中で、中高一貫6カ年、高等部3カ年に、本学ならではのそれぞれの学びと、教育目標の達成をかなえる中高一貫教育の構築を目指す。

- (1) 行事や授業が教育目標に基づいて計画・実施・評価・改善されているかを、各分掌部長・学年主任・教科主任が責任を持って確認する。また、教育目標を生徒自らの成長目標に反映できるよう、手帳の記入や「Classi」への入力を通し

て、適切な働きかけを行う。

- (2) 高大接続改革等に伴う学び方の改革に向けて、多様な経験を積んだ生徒が刺激し合い成長することを目的とした内部進学者と高等部からの入学者の混成クラスにおける教育活動のあり方について、検証と改善を行う。
- (3) 中高一貫 6 カ年および高等部 3 カ年のカリキュラムについて、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」に主眼をおいたグランドデザインの加筆・修正を行い、授業等に実践する。
- (4) 命と向き合うことで自己肯定感を高め、命のつながりで構成される社会に目を向け、自身の生き方を考える中学部の「マーガレットタイム」を生徒の発達段階に合わせた体系的なものに発展させる。また、持続可能な社会の創造を視野に、自分の生き方を考えるキャリア教育につながる学びを促進し、高等部の研究部やキャリア部との連携を図る。
- (5) 2018（平成 30）年度は中学部第 1 学年の技術の授業に加えて、第 2 学年でも年間 10 時間程度のプログラミング授業を導入した。2019 年度はカリキュラムを一部変更し、中学部全学年でプログラミングの授業を導入する。さらに、他教科との連携を視野に入れ、中高 6 カ年の学びにおけるプログラミング学習の位置づけを模索する。

## 2. 授業改善に取り組み、生徒の学力伸長を図る（継続）

新学習指導要領（中学校：2021～全面実施、高等学校：2022～年次進行で実施）や高大接続改革の動きをにらんで、いわゆる「学力の三要素」（① 知識・技能の確実な習得、②（①を基にした）思考力、判断力、表現力、③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をバランスよく育成するための授業のあり方を、さまざまな観点から議論・実践する。

- (1) 新学習指導要領の実施に向けた研究を進め、「主体的・対話的で深い学び」を可能にするために、より実践的・効果的な研究授業や授業アンケート、教員研修を実施する。
- (2) 2018（平成 30）年度当初に生徒用無線回線の更新を行った。2019 年度は回線速度の最適化を検討し、次年度に向けて 1 人 1 台端末ステージ（後述）への備えを行うとともに第 2 校舎の ICT 機材環境を整備する。全生徒への「G Suite」アカウント配布および運用は順調であるため、2019 年度も「Classi」と合わせて積極的に活用する。これらの整備を土台として、文部科学省の提唱する Stage4「生徒 1 人 1 台端末ステージ」の準備に着手する。
- (3) 「Classi」ポータル機能の活用を行う。生徒自身が学内外での学びを言語化して振り返ることを通し、学びの主体性を育成する。また、生徒カルテ機能を活用し、教員間の情報共有や模試データの共有を行って、面談内容の充実を図る。

### 3. 進学実績及び生徒・保護者の進学満足度を向上させる。(継続)

新しく制定した、中学部・高等部キャリア教育(持続可能な社会の創造を視野に、自分の生き方を考えるキャリア教育)の視点に立ち、日々の学習活動、課外活動や進路研究などを行う。活動を通して自ら課題を発見し、問題解決への具体的な方法を探究する力を育成し、本学・他大学への進学率向上に努める。

- (1) 自分の生き方を考える中で、上級学校での学びをその実現のために必要不可欠なものと捉えさせ、生徒の学習および進学への意欲を高める。
- (2) 探究プログラム(仮)や学園連携プログラムを通して、未知の世界に触れ、課題解決のための方法論を学び、個々の生徒が、今までできなかったことができるようになることを目標とする。
- (3) 外部講師を活用した生徒対象のキャリアガイダンス等から、最新の入試情報を生徒・保護者に提供し、進路の実現を目指す。また、大学入試共通テストに向けた進路支援体制を構築するために、外部講師との定期的な情報交換会を設定する。
- (4) 進路支援ソフトを利用した模擬試験等のデータ分析を進路指導に役立てる。

### 4. 入学者増に向けた取り組みを行う。

#### [中学部] (継続)

2019年度の入学試験および入学者の動向を踏まえ、2020年度入試に向けた活動と予算執行を行う。特に、新規受験者の開拓にあたる「公立一貫校志望者を私立学校受験者へと取り込むイベントや行事」「帰国子女への積極的なアプローチ」を活発に行うことにより、入学者増をめざす。

- (1) 塾訪問の実施、海外日本人学校訪問の実施、塾名簿の作成・更新、入試動向の分析
- (2) 学校説明会・外部合同説明会・海外学校説明会の取捨選択と内容更新
- (3) 内部進学者に対する低学年、中学年に対するアプローチの新規行事検討

#### [高等部] (継続)

2019年度入試の結果、入学者は2018(平成30)年度を下回ることとなった。特に、特進コースにおける「書類選考」型の志願者の減少が目立った。学校説明会への参加者数は堅調であったが、最終的な志願校としては選択されなかったものと考えられる。これを踏まえ、2018(平成30)年度までの施策に加え、新たな方向性を検討する。

- (1) 本学の募集制度の特徴をより正しく外部中学校側に理解されるように、引き続き要項および基準の整備を行うとともに、その送付内容を検討する。

- (2) 志願者数と入学者数の相関関係を追究し、その因果項目の細分・明確化に努める。
- (3) HPにおける情報の送受信について、受験生および保護者の目線に立って検討し、改善する。特に、入試情報の発信については、一部業務をメディア情報部から移管して、正確・迅速であることに努め、閲覧者の利便性を高める。
- (4) 学校説明会等において、「大学入試改革」に向けた本学の教育内容や取り組みをよりアピールする。併せて、本学のイメージ強化のための広報ツールの利用・改善を検討する。
- (5) 部活動優遇措置の積極的活用などを通して、入試基準の見直しによる露出効果を活かす。

#### 5. 新学習指導要領に対応した教育課程作成に着手する。(継続)

2018(平成30)年度中に発足した「教育課程検討プロジェクトチーム」により、本学の教育目標や学校の将来像、生徒の実態等を踏まえた上で、カリキュラムマネジメントの視点に基づいた全体の方針を策定した後、「教育課程検討委員会」を発足させて教育課程を検討し、2019年度内に原案を提案する。

#### 6. 総合学園として各部間の連携教育を充実させる。(継続)

各部間の教育内容についての相互理解を進め、建学の理念や教育目標に基づく学びのあり方を明確にすることで、内部進学者を安定的に確保し、満足度の高い学校づくりと教育力の向上を推進する。

- (1) 小中高連携教育の一環として、中学部生を第2・3校舎に移動するための改修・改装工事計画について長期的に検討する。
- (2) 新たに制定した中学部・高等部キャリア教育(持続可能な社会の創造を視野に、自分の生き方を考えるキャリア教育)の目的達成に向けて、各プログラムや各プロジェクトの実施、管理を行う。生徒たちが活動を通して目的達成のために必要な課題を発見し、問題解決への具体的な方法論を探究する力が身につくような運営を目指す。
- (3) 本学および併設各部会との情報交換を密にし、相互に連携可能な授業・課外活動・プログラムの可能性を探る。
- (4) 国が進める「学校の働き方改革」の流れと本学各学校の実情と問題点を的確に把握し、具体的な改善計画の立案に着手する。

## ＜小 学 部＞

Sagami Vision 2020 で、目指す児童像である「自分からできる子」について、2019 年度は、更に強化していく 1 年とする。これまでの教員による研究実践報告会を重ねてきたが、2019 年度は、個人の研究レベルから、学校全体での取り組みのレベルに昇華し、実践を強化する。

また、Sagami Vision 2020 の完成年度には、相模女子大学小学部「公開教育研究会」を計画していることから、2019 年度は、一定の研究成果をまとめていく 1 年としたい。

一方で 2020 年度から完全実施となる新学習指導要領の考え方を踏まえつつ、本学の教育のあり方を見直し、新たな教育課程の構築にむけて検討を本格化する。

### 1. 目指す子ども像「自分からできる子ども」の育成を踏まえた教育活動を改善する。 (継続)

教員の指導意識の統一化を図り、「自分からできる子」について明確な指導を行いながら、子どもたちへの指導のあり方について検討する。

- (1) 小学部の教育の様々な場面で、子どもたちの主体的な活動が展開されているかを検証する。
- (2) 「自分からできる子」の育成に向けて、小学部の指導のあり方を明確にし、1 年間の実践と研究成果を残す 1 年とする。
- (3) 子どもたちが主体的に自分の探究したいことを見つけ、調べ、発表するという活動を各教科において試行していくとともに、新たな教育課程のあり方につなげる。
- (4) 子どもたちの可能性を切り開く、教育課程のあり方について、教育課程検討委員会を立ち上げ、具体的な検討に入る。

### 2. 授業づくりと指導力向上に取り組む。(継続)

2020 年度に行う小学部「公開授業研究会」実施にむけて、小学部の考える授業(指導メソッド)づくりを目指して実践研究を進めるとともに、指導力向上をすすめていく。

- (1) 「言語活動の充実を図り、考える力の育成」を目標に、「考える力を育てる 4 段階」を意識した授業の研修活動を充実させる。
- (2) 定期的、継続的に授業をみて下さる講師を招聘し、指導していただく。
- (3) アクティブラーニングをテーマに、中学部との共同研究会を開催する。(昨年度より継続)
- (4) ICT、プログラミングなどを利用した教育を積極的に押しすすめ、子どもたちの思考力の向上、プレゼンテーション能力の向上などを図っていく。

### 3. 学園連携教育の推進と進学へのサポート体制を推進する。(継続)

小学部では、大学及び併設各部の連携を積極的に進めてきた。この点を更に充実したものとし、学園教育の良さをアピールしていきたい。特に、強化すべき点として中学部へ進学する児童を増やすことがあげられる。中学部との教育内容の連携、中学部教育の魅力の発信を強化するなど努め、内部進学者の増員を図る。

- (1) 小中の教育内容を比較し、小学部卒業生が中学部進学後にそれまでの学習を生かして活動ができるよう、英語教育、プログラミング教育などを中心に連携を図っていく。
- (2) 中学部の広報活動への積極的な協力体制をつくる。
- (3) 中学部生徒と小学部児童の交流の機会を大切にして、中学部進学者の増加に努める。
- (4) アクティブラーニングを視点に、中学部との共同研究会を開く。(上記2.にも記載)

### 4. 児童募集にかかわる広報活動を充実する。(継続)

2018(平成30)年度は、幼稚部からの進学者安定的確保のため、小学部教育の幼稚部へのアピール活動を強化し、一定の効果を上げてきた。

しかしながら、外部の募集状況は横ばいであることから、今後も積極的な広報活動を工夫して、受験者の増加を図りたい。特に、男子児童の応募は増加しているが、女子児童の応募は伸びていないので、その点を分析し、対策を強化する。

- (1) 従来の学校案内に加え、特色ある小学部の教育活動のそれぞれに特化したパンフレットを作り、明確なアピールを展開する。
- (2) 動画を盛り込んだホームページや学校説明会の展開を工夫する。
- (3) 学校説明会に参加して下さった方、1人ひとりに、直接ご案内を差し上げるなど、丁寧な広報活動を大切にする。
- (4) 女子児童の応募増に向けて、問題点を分析し、教育内容のアピールの仕方を工夫する。

### 5. 英語教育を推進する。(継続)

英語教育については、オンライン英会話を生かすためのカリキュラム再編成をする。その際、各学年で身につける単語や文章について数や内容等も整理し、具体的な到達規準を作成する。

- (1) 第4学年で実施している **British Hills English Camp** では、事前指導を密にすることでより充実した活動になるようにする。
- (2) ICTを積極的に取り入れ、授業を展開する。

- (3) 国際理解教育については、本学、また姉妹校 Peregian Springs States School や Sinarmas World Academy とのより活発な交流、安定した参加者を集めるため、継続してその良さを保護者に伝えていく。
- (4) 教員派遣を実施するシンガポール日本人学校との交流やその他の学校との交流や語学研修も検討のため準備と視察を行う。

## 6. プログラミング教育を導入する。(継続)

2020 年からプログラミング教育の必修化にあたり、21 世紀型教育や STEM 教育が様々なメディアでも取り上げられており、保護者や社会での注目度は非常に高い。小学部では、プログラミング教育の 3 年目に当たるが、これまで年間 14 時間程度を目標に行ってきた。今後は、他教科との連携を図りつつ、更にプログラミング教育の成果がわかるようにするために、授業時数を増やすことについて小学部全体の教育課程の再編成や教員の指導体制のあり方や指導力の向上に努めたい。また、中学部・高等部の系統性も考えていきたい。

- (1) 小学部をプログラミング教育の先進校とすべく、研修活動を行う。
- (2) 教育課程検討委員会の検討項目の重要点として位置づけ、プログラミング授業の時数、指導体制について検討し、整備する。
- (3) ロボットの大会に挑戦する子どもたちのグループを作り、より興味関心の高い子どもたちの育成を図る。
- (4) 連携校とのカリキュラムの共有化とロボットの大会や交流授業を企画し、実施する。

## 7. ICT 教育を推進する。(継続)

電子黒板の導入と第 4 学年以上の iPad の所持などを機に、学習において ICT を利用した教育活動の実践を重ね、その教育効果を感じている。

今後も更に多くの教室に電子黒板の導入を進めたり、様々な教育活動において、iPad などの電子機器を利用したりして、学習活動を強化していく。

- (1) 「ロイロノート」や「スクールプレゼンター」などのソフトを利用して、より効果的な指導の研究を推進する。
- (2) 一人 1 台の iPad の個人所有を生かして、主体的な学びを育むためのさらなる指導実践を展開する。
- (3) 全児童に iPad をもたせることに関する問題点を整理して、「iPad 使用のきまり」等を整備すると共に、情報モラル等の教育を確実に行う。
- (4) 全教室の電子黒板配備のための計画を立てる。

## 8. 特色ある教育「つなぐ手の学習」を推進する。(継続)

2018(平成30)年度に完成させたつなぐ手の全学年カリキュラムを基に、2019年度は、実践を通して、「自分からできる子」を育成するカリキュラムとして適切になっているかについて検証し、カリキュラムの調整を行う。

- (1) アクティブラーニングを取り入れた授業の確立と学習指導要領改訂後の特別の教科「道徳」にも対応したカリキュラムになりうるように研究する。
- (2) 心と心をつなぐコミュニケーション能力育成の授業は、教具を開発、活用することで、より効果的な授業を展開する。
- (3) Project Adventure Japan の研修に教員を1名参加させ、つなぐ手のコミュニケーション力向上の指導について、指導的立場の人材を育てる。

## 9. 「学校の働き方改革」を推進する。(継続)

国が進める「学校の働き方改革」の流れと本学各学校の実情と問題点を的確に把握し、具体的な改善をはかる。

### < 幼 稚 部 >

幼保連携型認定こども園としての安定的な運営システムと「幼稚部つなぐ手」の導入など特色ある幼稚部の教育・保育を実践していきながら、Sagami Vision2020 以降の幼稚部の在り方についての検討も開始する。

## 1. 「幼稚部つなぐ手」の導入と特色ある教育・保育の確立に向けた取り組みを展開する。(新規・継続)

幼稚部独自の教育・保育プログラムである「幼稚部つなぐ手」に基づく教育・保育を実践していく中で、子どもたちに豊かで多様な経験を保証していくとともに、地域社会の資源を活かし、地域社会と連携した教育・保育を実践していく。また、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応した教育・保育実践のあり方について、特に乳児の教育のあり方を中心に引き続き検討していくとともに、全ての子どもたちが安心・安全に生活を送っていくための取り組みを強化していく。

- (1) 「幼稚部つなぐ手」を核とした幼稚部独自の教育・保育を実践する。
- (2) 地域社会の資源を活かし、地域社会と連携した教育・保育を実践する。
- (3) 新園舎エントランスに設けたアトリエスペースを用いたアート活動を幼稚部の教育・保育に導入する。
- (4) 新幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応した乳児教育のあり方を検討し実践していく。

- (5) ヒヤリハットや事故事例などを用いた事故防止・安全対策を強化する。
- (6) Sagami Vision2020 以降の中期計画について検討を開始する。

## 2. 子育て支援室を基点としたインクルーシブ教育・保育の充実化を図る。(継続)

子育て支援室（どんぐりのへや）を基点とした、様々な保護者向けの子育て支援活動を行っていく。また、子育て支援室と保育教諭・保護者との連携によるインクルーシブ教育・保育の充実化を図る。

- (1) 支援コーディネーター、臨床発達心理士、保育教諭、保護者などの連携によるインクルーシブ教育・保育を実践する。
- (2) 特別な配慮の必要な子どもに対する支援を充実化させる。
- (3) 保護者向けの発達・子育て支援活動の充実化を図る。
- (4) 地域の親子向けの子育て支援活動の充実化を図る。
- (5) 子育て支援室（どんぐりのへや）を児童発達支援センターへと移行するための検討を行う

## 3. 乳幼児の ICT 教育の導入に向けて試行的に実践する。(継続)

2 歳児及び 5 歳児において試行的に実践してきた ICT 教育を 3 歳児、4 歳児にも導入していくことによって、幼稚部の新たな特色ある教育・保育としていく。

- (1) 幼稚部既存園舎においても、ポケット Wi-Fi の導入によって、ネット環境を整備する
- (2) 2 歳児及び 5 歳児において実践してきた ICT 教育を 3 歳児、4 歳児にも導入していく。
- (3) ICT 教育を乳幼児教育に導入することのメリットとデメリットを明確化し、デメリットに対してはその対応策を検討していく。

## 4. 特色ある食育に向けた取り組みを展開する。(継続)

幼稚部の「食育計画」と「幼稚部つなぐ手」の一体化の中で、幼稚部独自の食育活動を実践していく。

- (1) 給食メニューの多様化（郷土料理、世界の料理など）と季節や年中行事などに応じたメニューを提供する。
- (2) 食育計画と幼稚部つなぐ手の一体化を検討する（畑で栽培したものを調理、園外活動・保育での給食の提供など）。
- (3) 栄養食育室職員と子どもたちとの交流活動を行う。

## 5. 多様な文化に触れる機会を充実させる。(継続)

幼稚部の生活の中で、日本文化をはじめとする多様な文化に触れる機会を保証していく。

- (1) HET (Happy English Time) を10回開催する。
- (2) 外国人学生インターンシップを受け入れる。(2カ月間程度)
- (3) 日本の伝統行事・文化に触れる機会を保証する。

## 6. 幼稚部の安定的な運営システムを確立する(継続)

- (1) 職階級制を導入し新旧給与体系を一本化した、新しい給与体系による運営を行う。
- (2) 主な役職(園長・副園長・主任など)について、職員を固定するのではなく、任期毎に交代していくような組織運営を導入するとともに、そのメリットとデメリットについて検討する。

## II 学園教育の特色を明確にする計画

他の総合学園にない特色ある教育活動として取り組む「学園連携教育活動」と「地域連携教育活動」を、サポートする体制を確立する。

### 1. 学園連携教育を推進する計画(継続)

学園連携推進委員会の下に設置した各部会を中心に、(1)国際(外国語)教育、(2)国語教育、(3)日本伝統文化教育、(4)食育・健康教育、(5)ICT教育、(6)キャリア教育について推進を図る。

#### (1) 国際(外国語)教育

国際教育および英語教育に関する取り組みについて情報を共有し、併設各部署は高等部を中心に連携を図り、その後、学園全体の連携につなげる。

#### (2) 国語教育

学園全体の「読書活動」を促進するために、各部の推薦図書をリーフレットにまとめるとともに、各部間の「言語活動」及び「表現活動」の連携について検討する。

#### (3) 日本伝統文化教育

わが国の伝統的な文化・芸術に対する関心を高めることと理解を深めることを目的とし、各部の取り組みの連携を図り、イベントとして「相模女子大学書初め展」、「相模女子大学かるた大会」を開催する。

#### (4) 食育・健康教育

各部において行われている現状の活動を取りまとめ、積極的に情報を発信するとともに、学園連携教育としての教育目標の設定やプログラムの構築を行う。また、中期的な取り組みを検討する。

#### (5) ICT 教育

2020 年度から小学校の学習指導要領でプログラミング教育が必修化されることに伴い、その方向性を学園内で共有し実践する。また、本学園で実践される取り組みを社会に発信する。

#### (6) キャリア教育

キャリア教育は、社会的自立と職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成し、一人一人の発達を促していく必要があるため、小学部から大学を通してそれぞれの発達段階に応じた教育を計画し、実践していく。

### 2. 地域社会につながる教育活動を展開する計画（継続）

大学が蓄積してきた社会連携のノウハウや知識を学園全体で共有するために、併設各部の生徒を大学が進めている活動に参加させることで、地域における実践が学びにつながることを体験してもらう。

また、地域とのつながりの中で、学園内の学生・生徒・児童等に様々な体験の機会を提供するなど、本学園ならではの「学びと実践を大切にす教育」を推進するために「夢をかなえるセンター」を中心に取り組みを実施する。他の総合学園にない特色ある教育活動として取り組む「学園連携教育活動」と「地域連携教育活動」を、サポートする体制を確立する。

## III 学園の教育・研究を支える安定した経営基盤を確立する計画

Sagami Vision 2020 では、新しい教育構想を実現するためには、教学面と経営面の両面において、確かな基盤が存在することを前提としている。これを実現するために、経営面での安定した経営基盤の確立に向け、中長期基本計画に示されている各計画を実行し、「健全な財政と資源（人材・施設設備・資金・情報）の適正な配分」を行う。

### 1. 施設設備計画（継続）

「魅力ある教育研究と安全な学習に必要な施設設備を用意する計画」の実現に向けて、充実した施設慣用の整備を推進し、魅力あるキャンパスづくりを目指す。

(1) 桜木更新5カ年計画の3年目として、樹木診断の結果をもとに桜の剪定及び百年桜の土壌改良を実施する。

- (2) 老朽化している正門横（守衛室棟、学生ロッカー棟等の木造建築物）エリアを再開発するための準備段階として、東門の整備、守衛室棟及び学生ロッカー棟（プレハブ）の建設に着手する。
- (3) 老朽化施設の改修（焼却炉及びボイラーの煙突の解体、北側敷地境界の万年堀更新）を実施する。
- (4) 昨年度、中間報告として取りまとめた中期的な環境整備マスタープランについて、引き続き、各部署と細部を検討したうえで、策定し、公表する。

## 2. 情報システム計画（継続）

ICT 教育に不可欠な設備を充実させ、学園全体の ICT 教育環境の整備を推進するとともに、情報システムの管理・運営体制を構築する。

- (1) 基幹ネットワークの稼働率を上昇させ効率化を図るため、昨年度に引き続き重要度が高いネットワーク機器の更新を実施する。
- (2) 学生用メールシステムの更新に引き続き、スターオフィスのメールシステム、ファイルサーバのクラウド化へ移行し、教職員向けの安定稼働できるメール利用環境を整備する。
- (3) Wi-Fi 環境の整備として、マーガレット本館の無線 LAN を更新する。
- (4) Windows7 の保守終了に対応するため、3 年計画の 2 年目として、情報処理教室（3 教室）、学生ラウンジ（3 号館、7 号館、マーガレット本館）の PC を更新する。
- (5) クラウド型学習支援システム「manaba」のアカウント数を全学生数分に増やし、きめ細かな学修支援を実現するための環境を整備する。
- (6) 老朽化している統合管理システムを再構築し、学生及び教職員がネットワーク及び各システムへの接続環境を整備する。

## 3. 人事計画（継続）

学園の教職員が、最も力を発揮できる組織と制度づくり、学園の教育活動、研究活動、経営活動を支える人材を育成するための人事制度改革を推進する。

- (1) 2012（平成 24）年度に導入した事務職員の人事制度について、現在抱えている課題を抽出し、それを解決するための新たな制度を検討し導入する。
- (2) 政府により議論されている教員の働き方改革の動向に注視しながら、幼稚部を除く年功のみによる併設各部の教員給与制度を、教育目標の達成に向けられる個々の貢献度や教育行政における役割の重要度に応じて処遇する新しい教員給与制度に移行することについて検討する。
- (3) 教職協働により、学園の教育活動、研究活動、経営活動を支えることのできる人材を育成するため、計画的な SD 研修人材育成を行う。

#### 4. 学園広報計画（新規）

総合学園としての魅力ある教育活動を学内と学外に向けて積極的に発信する。

- (1) 大学ホームページの2020年度の全面リニューアルを見据え、2019年度はホームページの見直しに着手する。
- (2) 多方面で顕著な活躍を見せている学生・生徒等や教員の姿について、プレスリリース配信サービスを用いて、全国紙・地方紙をはじめとしたマスコミ各社への働きかけを強化していく。

#### 5. 財政計画（継続）

学園を永続的に発展させる教育・研究を保障する財政基盤の構築に向け、大学・大学院・短期大学部および併設各部の教育構想や環境整備マスタープランを反映させた中長期財務計画を作成し、安定した財務基盤の構築に向けた取り組みを推進する。

- (1) 最新の各部の入試状況を踏まえた財務シミュレーションから抽出した経営課題の解決にあたる。
- (2) 志願者および新入生の確保や退学者抑制により、主要財源である学生生徒等納付金の確保に努める。
- (3) 積極的な補助金獲得、募金事業の推進、資金運用収入などの外部資金確保による収入増に向けた取り組みを推進し、収入の多くを学生生徒等納付金に依存している現状の財務体質を改善する。
- (4) 2025年（創立125周年）に向けた新規の募金事業を検討する。

#### 6. 危機管理計画（継続）

大規模災害や事故等が発生した際に学園として円滑に対応できるよう、学園のリスク管理を推進する。

- (1) 各部の危機管理に関する取り組みを把握し、危機予防及び発生した危機を最小限度に留めるために、学校法人としてのマニュアルを作成する。